

生物研究

第 XVII 卷 第 3・4 号

1973

(終卷記念号)

THE LIFE STUDY

Vol. XVII, Nos. 3・4

(Final Issue)

December 25, 1973

FUKUI, JAPAN

目 次

報 文

台湾産アナバチ科の研究 (XV) (英文)	常 木 勝 次	… (39)
マメギングチバチの習性	田 堃 正	… (50)
樹脂を使用するキユビギングチバチの習性	南 部 敏 明	… (55)
トゲアシギングチバチについての観察	山 田 晴 昭	… (61)
カヤの筒に造られたヒメコシボソバチ類の巣 (英文)	常 木 勝 次	… (63)
トモンハナバチの巣の1例	前 田 泰 生	… (74)
ニッポンジガバチモドキの巣	田 堃 正	… (77)
フクモンアシナガバチの多雌創巣例の発見 (英文)	山 根 正 氣	… (79)
スズメバチ属ハチ類のコロニー内の分業。Ⅲ。外役活動	松 浦 誠	… (81)
奄美群島の蜂類	室 田 忠 男	… (100)
常木教授採集朝鮮産広腰眼目の蜂類 (英文)	富 樫 次 次	… (103)
アナバチ科2種の学名変更 (英文)	富 樫 次 次	… (113)
1972年台湾で採集した蜂類	室 田 忠 男	… (115)
山梨県のアナバチ科 (第1報)	須 田 博 久	… (121)
有刺類の行動等について	宮 野 正 雄	… (125)
日野山のソボツチスガリの巣	常 木 勝 次	… (127)
カギバラバチ類の採集	常 木 勝 次	… (128)

採 集 行

山梨県ハチ類採集コース	須 田 博 久	… (131)
-------------------	---------	---------

研 究 手 引

蜂類研究手引 (32)。日本産キマダラハナバチ属	常 木 勝 次	… (135)
--------------------------------	---------	---------

短 報

銀口蜂関係学名変更 (49)。筒巢に寄生したヒメバチ (49)。ウスキギングチ福井県から初記録 (54)。ジガバチモドキ検索表の訂正 (54)。日本産ジガバチモドキへの追加 (54)。キユビギングチ福井県第2の記録。岩手・秋田県で採集したアナバチ科 (76, 南部)。ガロアシギングチとニッコウギングチ (キ, 78)。モウソウタマオナガゴバチの習性 (99, 富樫)。マルバツツハナバチの巣 (112)。サッポロジガバチモドキ 8福井県で発見 (113)。スミスハムシドロバチの巣 (114)。ツマアカツチバチを福井県で採集 (120)。フジジガバチの福井県内新産地 (120)。スギハラギングチについて (126)。オクネギングチについて (130)。エゾマエダテの学名変更 (134)。トゲアシギングチについて (150)。ジガバチモドキの獲物 (150)。埼玉県のアナバチ科 (150, 南部)。フクシスズバチの巣 (150)。

CONTENTS

K. Tsuneki: Studies on the Formosan Sphecidae (XV)	(39)
T. Tano: Nesting biology of <i>Entomognathus brevis</i> Linden observed in Japan	(50)
T. Nambu: Biology of <i>Crossocerus (Towada) flavitarsus</i> Tsuneki, using resin to close the nest entrance	(55)
H. Yamada: Some observations on nesting habits of <i>Crossocerus dentatus</i> H.-S.	(61)
K. Tsuneki: Nests of some Pemphredonine wasps in the pith of <i>Miscanthus</i>	(63)
Y. Maeta: A nest of <i>Antidium septemspinorum</i> Lep.	(74)
T. Tano: A nest of <i>Trypoxylon nipponicum</i> Tsuneki	(77)
S. Yamane: Discovery of a pleometrotic association in <i>Polistes chinensis antennalis</i> Per.	(79)
M. Matsuura: Intracolony polyethism in <i>Vespa</i> . III. Foraging activities	(81)
T. Murota: Some aculeate Hymenoptera collected in the Amami group of the Ryukyus	(100)
I. Togashi: Tenthredinoidea of Korea collected by Prof. K. Tsuneki in 1941-43	(103)
K. Tsuneki: Taxonomic notes on two species of Sphecidae	(113)
T. Murota: Sphecidae, Mutillidae, Scolidae and Chrysididae collected in Formosa in 1972	(115)
H. Suda: Sphecidae of Yananashi Pref., Japan	(121)
K. Tsuneki: A nest of <i>Cerceris sobo</i> on Mt. Hino, Fukui	(127)
K. Tsuneki: On Trigonalioidea of Japan	(128)
K. Tsuneki: A guide to the study of the Japanese Hymenoptera (32). The genus <i>Nomada Scopoli</i>	(135)

ま10時前サオラ峠着(約 1,400m) 峠の地面にはコハナバチ, ツチスガリが穴に入っている。三条ノ湯方向の林の中に入りホソトゲアシベッコウの雄を朽木の廻りで採集, ハバチが時折飛出すがシシウドが見つからず不成績だ。時間をかけてアナバチ類を探したがニッポンアワフキバチとハクサンツヤバチ位である。12時サオラ峠に戻り昼食。その後親川方面にむかい枯木でギングチバチを採集, 天平に至る道でやっと待望のシシウド群落を見つけ, この花上に飛来していたオオギングチバチらしき種を取逃したとき, 大粒の雨が降りだし, すぐに雷を伴いドシャ降りとなった。木の下で数人の登山者と雨やどりしたが一向にやむ気配がないため, 13時半ほぼかけ足状態で下山, 雨合羽の裾より猛烈に雨が入り込み下半身ズブヌレでこれからが好採集地であるというのを目前に戻る結果となったのである。

◎ 1972年9月12日(晴一時曇) —— 北多摩郡須玉町金山高原(B) (増富ラジュウム温泉郷 — 金山)

この地への採集目的は, 新種スダアリマキバチ2頭目および未知の雄発見を第1にアワフキバチ類, ギングチバチ類を時期を多少心配しながら出掛けたのである。夜半新宿を発ち3時34分葦崎に着き仮眠するが寒い。7時5分発のバスにて8時25分増富ラジュウム温泉郷着(約 1,050m) 朝食に信州ソバをかき込んで9時出発。前回ハバチ類が多かった道にはコハナバチ, マルハナバチ以外特に採るものなし。金山木賊峠分岐手前の開けた土地にホステルのような建物がありこの草間でジガバチ, コツチバチと共にアイヌギングチバチを採集, 金山沢に入ったところでポツリポツリウドが咲いているが, 一番見通しの好いところにキオビホオナガスズメバチと時々ギングチバチ類が現れる。金山山荘付近(約 1,400m) には多少遅過ぎた感じはあるが, その中に満開の大きなシシウドを見つけ, 昼食のオムスビを食べながらヒラズを主体としてオオギングチバチやトゲムネアナバチ等を採集, 雲がだいぶ厚くなってきたため12時半帰路につき次第に天気は悪くなり収穫なきまま15時45分ラジュウム温泉郷着, このとき雨が降り出した。

◎ 1972年9月13日(晴) —— 葦崎市甘利山(湯橋上 — 樞池 — 葦崎駅)

前夜激しい雨と雷があったのが今朝はウソのように晴上っている。駅前旅館を8時に出, タクシーで甘利山登山口から500円までの距離ということで湯橋先の約650mの高さの地点で下車(8時40分) 林道内の木々は昨夜の雨でしっとり濡れ, 木蔭には虫の姿見られず。だが日当りのハギにはオオハキリバチ, バラハキリバチ, ミツバチ等が見られるのでそろそろネットを準備, 明るく開けた栗平に着き数頭のハエトリバチが飛出す, これよりの林道を特にガケ面に注意深く目を向けながら歩き出す。トゲムネアナバチに続き黒いガロアマダラハナバチが見付かる。だが少し登るとコツチバチが増へてきた。ダラダラ登りやと11時樞池が見へ白鳳荘に着き(約 1,250m) 水を飲み白鳳荘裏に入るとブセンバチ, ギングチバチ, アリマキバチ等がネットインできた。池の廻りには3カ所にシシウドが咲いていたのでクロギングチ, ヒゲアシギングチ, エグレギングチバチ等を採集した。この後すぐ引返しハエトリバチ, スズキギングチバチ等が多く見られるうちに栗平着, 以降はほとんど採集出来ず, ただ下流の天神橋でルリモンハナバチを一頭採ったのを最後に16時半葦崎駅に戻った。

エゾマエダテバチの学名変更

1907年に Cameron がインドから記載した *Psen puncticeps* というハチは, 最近タイプの研究によって *Psen* でなく *Psenulus* であることがわかった。このため *Psenulus puncticeps* Gussakovskij は先取されていることとなり, 種名の変更が行なわれた。それでエゾマエダテの学名は *Psenulus pallipes gussakovskiji* Lith となった。なお Lith はこれを独立種として扱っているが, 私は亜種とするほうがよいと思う。また彼は *pallipes* (Panzer) の代りに *atratus* (Fabricius) を使っているが, これは *pallipes* でよい。

(常木)